

Tokken NEWSLETTER 08 2020

知っておきたい

感覚統合

第6回
「聴覚ってなんだろう？」

聴覚は私たちが音声を使って人とコミュニケーションをとったり、周囲の音から状況を判断したりするために使っている感覚です。聴覚も外界の音をただ受け取っているのではなく、必要な情報を聞き取り、他の感覚や運動と連携して働きます。



聴覚のはたらき

聴覚には、様々な雑音の中でも必要な音の情報だけを選んで聞き取るシステム（図地弁別機能）があります。何かに集中しているとき、私たちは周囲の雑音をシャットアウトしますが、必要なことがあるとそちらに注意を向けて反応することができます。



慣れない音に振り向く動作は聴覚の情報と運動が統合されたものです。

聴覚とコミュニケーション



聴覚情報と感情

聴覚情報はコミュニケーションによく使われていますが、無意識に処理されるなかで、私たちの感情や気分、覚醒に影響を与えていきます。リズムやピッチ、音質、音量などにより、リラックスしたり興奮したりする作用があります。



言語の学習

話すことばの理解には、聴覚情報が時間の流れにしたがってひとつずつ順序よく処理される必要があります。話されたことばは消えて無くなっていくので、ことばの理解は集中力や記憶の力にも大きく影響を受けます。



聴覚過敏

周囲の音が我慢できないほど大きく感じたり、非常に気になってしまふ状態です。



聴覚優位

音声での理解が得意な認知の性質です。なかなか顔を覚えられないといった苦手が見られることがあります。

【参考】土田玲子『感覚統合 Q&A』、共同医書出版社、2013年

トッケンの音の遊具

にじいろチャイム



特別支援学級の先生に聞きました。

現場の声

普段の指導の中でも、音が鳴ると喜んだり、音楽がかかるとニコニコしたりと、音楽の力を感じています。音や音楽がモチベーションになっている子は多いのです。また、楽器遊びは、

視覚、聴覚、触覚で働くかせます。複数の経路から刺激を受けるので、障害児にとって楽しがわかりやすい遊びなのです。五感の中でも触覚は特に意識しやすい感覚です。



こども達は、踏むと音が鳴ることが楽しくて、タイヤの上ですっぽんぴょん跳んでいます。

音への興味が行動意欲を高めます。「はねる」という単純な動作を飽きずに繰り返し行うこと

ができるのも「音」というものが大きな役割を担っているのを感じます。

きっと音無しのものだったらこんなにとび続けることはできないでしょう。

ステッピータイヤ



体育指導の先生に聞きました。



現場の声



ステッピータイヤの遊び方は動画でもご覧になれます!





こどもの生きる力を養う 36 の基本動作

人間の基本的な動きは 36 種類に分類できると言われています。幼少期にたくさん経験し、バランスよく身につけることが望ましいとされている「36 の基本動作」から、毎回ひとつの動作をとりあげ、その動きがこどもの生きる力にどのようにつながるのか、多角的に検証していきたいと思います。

[第 7 回] 36 の基本動作の逆算

大人になった元子ども達が 36 の基本動作を分析してみました

1

本連載を通して、36 の基本動作が幼児期にとても重要だということは皆様に充分ご理解いただけていると思います。

2

そこで今回は、私が某専門学校の幼児体育の授業で学生に出題したテーマについてお話をさせていただきたいと思います。



[解説してくれるのは]

山田秀一せんせい

横浜総合体育研究所 スキルアップスポーツクラブ

適切な指導と伝統の常識にとらわれることのない発想で、社会体育に新しい流れを切り開く体育・健康づくりのバイオニア。

<https://www.sogo-taiiku.co.jp/>

幼児期になぜ「36 の基本動作」の習得が必要なのか？



「各種スポーツ」と「普段の生活」をテーマに分析しました。



3

「36 の基本動作」がどのくらい使われている？

スポーツで見てみると、**バレーボールは 15 種類、卓球は 17 種類、サッカーは 21 種類**（様々な状況を考えて推測した数）と、スポーツをする上で多くの動きが取り入れられていることに気づきました。

普段の生活でも、朝起きてから夜寝るまで分析すると、**ほとんどの学生は 20 種類以上**とスポーツを上回っていました。

4

大人になった今では頭で考えて理解できますが、子どもの頃に**無意識で動いていた経験が今に繋がっていた**ことにあらためて気づきました。

「36 の基本動作」の必要性がわかる大人との関わりが、幼少期にはとても大事ですね！



5

子ども達の無限の可能性は、関わる大人や環境によって大きく変わることを実感した瞬間でした。

やはり我々の役割は重要なことです。

tokken.net



2020年8月
トッケン企画開発室

トッケンの考えていること、やろうとしていること、やっていることを知つてもう。そこから共感が生まれ、つながりが生まれます。この共感とつながりこそが「子どものあそび」の環境をより良いものにしていく原動力になっていくと考えます。

(この「子どものあそびの場をより良くしたい」という思いは、紙面内容のリニューアルを発表した2020年2月号にも書きましたが、その思いがより強くなつてきたということです)

遊具メーカーとして『子どものあそびをまじめにたのしく考える』というテーマの学びはずつと続きます。その学びは今後はウェブという媒体でシェアしていくことがあります。

今トッケンのサイトにアクセスしていたら、すっかりリニューアルされたページになつているはずです。トッケンだよりという限られた枠の中では伝えきれないたくさんのことをシェアしていく場を作りましたので、もしよろしければ覗いてみてください。

これまでのご愛読ありがとうございました。ウェブでの発信にもどうぞ期待ください！

2013年11月から約7年間、毎月発行してきたトッケンだよりですが、82号を迎えた今号をもちまして紙媒体での発行はいったんお休みします。理由は色々とあるのですが、ひと言でいうと「発信の方法としてベストではなくなってきた」ということです。

1ヶ月というサイクル、A4という限られたスペースでの内容、そして紙に印刷をして郵送するという方法。それ全てが段々とフィットしなくなってきたのです。例えば内容。最初の頃の社内報的な内容ではなく、遊具メーカーとしてもっと本質的なことを発信したくなつていきました。そしてトッケンのお客様だけでなく、もっと多くの人に伝えたりなりました。それにはやはり「紙」ではなく「ウェブ」での発信がベストなのではないかと。

ウェブで発信すること